



はじめ君、ずいぶん大人顔になりました。なんてたって、今度の5月4日で3歳になります。早いですね(^\_^;)でも、はじめ君にとっては、1年は長かったはず。私にとっての1年は1/58年に対し、はじめ君の1年は1/2年なんですから…

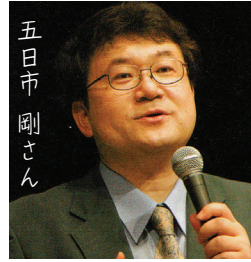
「苦しい時間は長く感じ、楽しい時間は短く感じる」と同義で考えれば、私にとって時間が早く過ぎると言うことは、人生そんなに悪くないって事ですか(\*^-^\*)

クスリ仲間のニュースレターに五日市剛著「ツキを呼ぶ魔法の言葉」の事が書かれてありました。感動したので、その日の内に本を取り寄せました。

著者の五日市さんは、大学院生の26歳の頃、人の欠点ばかりが目につき、毒のある言葉で指摘し相手を傷つけてしまうようないやな人間でした。そのため周囲との衝突が多く、友達もできない、人間関係の最悪の日が続き、イスラエルへ逃避行の旅に出ます。旅先でも、飛行機の遅延、財布の紛失、詐欺で所持金のほとんどを失い、やっと「ハイファ」という港町に着くと数十年来の大寒波。安宿はどこも空いてません。その時の五日市さんが発した言葉は、「ムカツク!サイアク!チクショー!ツイテナイ、ツイテナイ!何で俺だけこんな目に遭うんだよ!」でした。

その時、見知らぬおばあさんがニコニコしながら寄ってきて「私の家に泊まりなさい。」と優しく声をかけてきました。おばあさんが用意した温かいスープをすすりながら、おばあさんの身の上話に耳を傾けていました。そして、話の後半でこう言ったのです。

「ツキというのは、ほんとうにあるのよ。ツキを呼び込む魔法の言葉を唱えれば、簡単に手に入るの。それは二つあって、一つは、「ありがとう」。もう一つは「感謝します」。この二つの言葉の使い方には



五日市 剛さん

コツがあるの。嫌なことがあつたら「ありがとう」逆にいいことがあつたら「感謝します」と口にするの。嫌なことがあると、嫌なことを考え、嫌なことがまた起こる。そんな時に「ありがとう」と言うと、その不幸の連鎖が断ち切れるの」と教えてくれました。

さらにおばあさんは、絶対に口にしていけないことがあるといいました。それは、「汚い言葉」と「怒る」ことです。汚い言葉を口にすると、その言葉通りの人生になり、人を怒ると、それまで積み重ねてきたツキが、いつぺんに吹き飛んでしまうのだそうです。

帰国した五日市さんは、魔法の言葉を意識して口にするようにしました。すると、あれほど目についた他人の欠点が気にならず、むしろ長所に思えてきたのです。

気づくと、自分の周りには協力者や理解者があふれていて、自分を取り巻く人間関係が激変していました。そして、五日市さんは、大学で博士号を取り、一流企業に就職、理想の奥さんをもらい、ヘッドハントされて再就職した会社では、億単位の開発費が用意され、そこで開発した製品は、たった2年で日本のトップシェアになったのです。

五日市さんはイスラエルのおばあさんに礼状を書き、その返事には「心の持ち方って大事よ。だけどもっと大事なのは、言葉の使い方なの。どんな言葉を口にするかで、目の前がガラッと変わってくるし、あなたの心も変わってくるの。本当よ」。五日市さんは、魔法の言葉「ありがとう」「感謝してます」に加え「ツイてる」という言葉も意識して使うようにしています。

私は笑いヨガで常々言っていることは、「笑いヨガの思考は、いつもプラス思考。マイナス言葉は使わない。そして、人は自分の思った通りにしかならない。出来事は全て必然として受け止める」です。同じでした(^o^)受け止めたあと、つらい時は「ありがとう」良かった時は「感謝します」そして「ツイてる」と言いましょ!